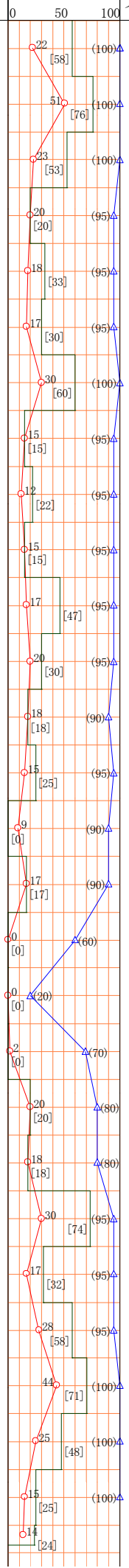
ボーリング柱状図

調査名	東南海・南海地震予測のための地下水等観測施設整備工事(三重県飯高町地区)
事業・工事名	
ボーリングNo	
シートNo	

ボーリング名	孔２	調査位置	三重県松阪市飯高町赤桶字羽白又１６８０			北緯	34° 27’ 12.09″
発注機関	産業技術総合研究所地質情報研究部門			調査期間	平成 19年 6月 29日 ～ 20年 5月 30日	東経	136° 18’ 46.30″
調査業者名	株式会社 日さく 電話（052-432-0211）	主任技師	渡辺寛	現場代理人	伊藤勉	コア鑑定者	高木信彦
孔口標高	299.020m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平0° 鉛直 90°
総掘進長	208.35m	使用機種	試錐機：利根ＴＸＬ-３Ｇ	エンジン：日産ディーゼルＮＰ-６０	ポンプ：ガードナーデンバー	ボーリング責任者	伊藤勉

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
182				カタクレーサイト（珪質岩）	緑灰～紫灰	B	II	a	α		棒状コアで採取される。全体に硬質である。 深度181.8m付近と182m付近が部分的に片状である。 岩石の組織は不明瞭である。全体に緑色あるいは紫灰色の色調を帯びる。 白色の方解石の網目状の細脈が見られる。 20°の比較的明瞭な亀裂が見られる。
183	115.42	183.60									
184	114.22	184.80					III				全体に棒状コアで採取され硬質であるが、割れ目で片状に分離している部分が見られる。 方解石の網目状の細脈が見られる。
185	113.12	185.90					II				棒状コアで採取され硬質。不規則な形状の割れ目で分離する。 方解石の細脈が見られる。
186	112.42	186.60					III				全体として棒状コア外形を示すが、割れ目が多く片状に分離する。
187	110.72	188.30					II				棒状コアで硬質。 不規則な形状の割れ目で分離する。密着した割れ目や方解石の細脈が見られる。
189	109.82	189.20				C	IV				コア外形は示すが、片状に分離する。188.4m付近は脆弱で砂状化し、方解石の脈が見られる。
	109.52	189.50					III				棒状コアで硬質。縦方向に比較的幅のある方解石の脈が見られる。
190	109.02	190.00					IV				片状コア主体。
191	107.72	191.30				B	III				棒状コア主体で硬質。高角度の亀裂で分離する部分が見られる。 方解石の細脈が見られる。
	107.42	191.60				C	IV				棒状～片状コア。
193	105.22	193.80			緑灰	B	III				棒状コア主体。 不規則な割れ目で分離し片状の部分が見られる。 方解石の細脈が見られる。
194	105.02	194.00				C	IV				礫状コア。φ3cm以下の角礫状。
195	103.42	195.60			緑灰～紫灰	B	III				棒状コア主体。 不規則な割れ目で片状に分離する部分が見られる。
196	103.02	196.00				C	IV				棒状～礫状コア。 礫状部分は粘土分が流出しているものと考えられる。
	102.62	196.40									
197						B	III				棒状コア主体。 棒状部分と棒状部分の間は礫状～粘土状部分が流出している。
198	101.32	197.70				D	V				礫状コア主体。棒状コアが部分的に残る。 礫状部分では粘土分が流出しているものと考えられる。
199	100.42	198.60				E	VIII	d			粘土化しているためコアがすべて流出したと考えられる。
200					緑灰	C	IV				礫状コア主体。粘土状部分が流出しているものと考えられる。 200.4m付近に脆弱な棒状コアが残る。 コア表面は凹凸が見られ、砂・粘土状部分が流出していると推定される。 角度約60°の構造が見られ脆弱化と関連すると考えられる。
201	97.42	201.60									
202					緑灰～紫灰	B	II				棒状コア主体で硬質。 ぜんたいとしては硬質であるが、203.0m付近では礫状の部分が見られ、粘土分が流出しているものと考えられる。 203.4m付近でも粘土分の流出が考えられる。
203	95.12	203.90									
204	94.92	204.10				C	IV				棒状～礫状コア。 礫状部分では粘土分の流出が考えられる。
205	93.52	205.50				B	II				棒状コアで硬質。 204.85mまでは亀裂周辺に礫状部分を伴い粘土分の流出の可能性がある。
206	92.52	206.50		珪質岩	灰	B	II	a	α		棒状コアで硬質。割れ目が密着する。 205.5m付近に角度約70°の方解石の脈が見られる。この付近から以深で長石の斑晶が見られるよになる。
207	91.67	207.35				C	IV				棒状～片状コア。
	91.47	207.55					V				片状コア。
208	90.67	208.35		トーナル岩	灰	B	III	a	α		棒状コアで硬質。割れ目が密着する。 マイロナイト化が認められる。



（ルジオン 標準貫入 ）試験

（Ｐ～ＱＮ値～深度）図
[] ： ルジオン値
() ： 換算ルジオン値
《》： 限界圧力

N値 0 10 20 30 40 50

孔内水位(m)／測定月日	（N）値	原位置試験（ ）	室内試験（ ）	掘進状況 掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
					130.0			3.1～3.6	180	2.5～3.0	清水／60	60
				1/13	51.4			4.1	210	0.8～1.0	60	60
					77.1			3.1～3.6	180	1.5	60	60
					77.1			3.1～3.6	180	1.5	60	60
					102.9			3.2～3.7	180	1.5	60	60
					50.7			3.2～3.7	180	1.5	60	60
					80.0			3.2～3.7	210	2.0～3.0	60	60
					85.7			3.2～3.7	210	2.0～3.0	60	60
				1/14	50.7			3.2～3.7	210	2.0～3.0	60	60
					100.0			3.2～4.2	210	2.0～3.0	60	60
					60.0			3.2～4.2	210	2.0～3.0	60	60
				1/15	60.0			3.3～4.3	210	1.5	60	60
					77.1			2.7	160～180	1.5～2.0	60	60
					68.6			2.7	160～180	1.5～2.0	60	60
					102.9	98	HQWL	2.8	160～180	1.5～2.0	60	60
					85.7			2.8	160～180	1.5～2.0	60	60
					102.9			2.8	160～180	1.5～2.0	60	60
					120.0			2.9	160～180	1.5～2.0	60	60
				1/16	140.0			2.9	160～180	1.5～2.0	60	60
					102.9			3.4～3.9	160～180	1.5～2.0	60	60
					110.0			3.4～3.9	160～180	1.5～2.0	60	60
					105.0			3.4～3.9	160～180	1.5～2.0	60	60
					102.9			3.5～4.0	160～180	1.5～2.0	60	60
				1/17	105.0			3.5～4.0	160～180	1.5～2.0	60	60
					46.7			3.4～4.4	220	0.5～1.0	60	60
				1/18	22.9			3.4～4.4	220	0.5～1.0	60	60

208	90.67	208.35		トーナル岩	灰	B	III	a	α		棒状コアで硬質。割れ目が密着する。マイロナイト化が認められる。		14	[24]															1/18				4.4		1.0	